

# 鷹取山自然観察会会報

2024.6.2

No.44

## 鷹取山の植物相調査 —2023年調査—

鷹取山は三浦半島北部に位置しており、神武寺から繋がる自然豊かな場所として、神奈川県生物多様性ホットスポットに選定された場所です。また、2020年に一般社団法人関東地域づくり協会と公益財団法人日本生態系協会が主催する「関東・水と緑のネットワーク」に応募し、鷹取山公園及び鷹取山自然観察会が選定され、さらに2022年に「神奈川の美しい広葉樹林50選」に選定されています。

鷹取山自然観察会は2013年11月から会員有志で植物相調査を開始し、2016年2月に環境省自然環境局生物多様センターが主催するモニタリングサイト1000里地調査(モニ1000里地調査)の一般サイトに登録されました。

これまでの植物相調査の結果については会報12、16、20、24、28、32、36、40号で報告しています。今回は、2023年1月～12月までの結果を報告します。



### 1. 調査方法

植物相調査はモニ1000里地調査マニュアルにより行いました。モニ1000里地調査は、定められたルートを定期的に歩き、植物の種名を記録する「トランセクト法」で行っています。この方法は、「高い精度で調査を行うことよりも、同じ精度で継続的に植物相を記録すること」を第一に優先しています。

当会では毎月第2金曜日に調査を行っています。モニ

調査日	1/13	2/15	3/10	4/14	5/12	6/18
人数	12	8	12	9	9	11
調査日	7/14	8/11	9/12	10/13	11/10	12/8
人数	11	7	6	12	8	10

1000調査マニュアルでは、木本及びシダ類、イネ科、カヤツリグサ科は除いてもよいとなっていますが、当会は維管束植物のすべてについて調査しています。

記載方法は、原則として種ごとに蕾、花、実の状態をチェックしています。種が不明なものについては標本を採取し、同定・確認しました。各月の参加人数は6人～12人が参加しました。

### 2. 調査範囲及び区間別の特徴

鷹取山周辺は鷹取山公園を中心として尾根沿いに緑地が広がっています。西側には沼間～神武寺まで広大な緑地となっています。この地域の全てを調査することは困難であることから、神武寺に至る逗子側を除き、横須賀市側について植生の違う場所を行っています。調査区間は調査ルート3.5kmとして、植生の違う6区間に区分しています。調査区間の図は会報32号に掲載しています。

区間ごとに特徴をみると、A区間は鷹取山公園を中心とした場所であり、高木としてコナラ、クヌギ、ムクノキ、ケヤキ、オオシマザクラ、ミズキ、イヌシデ、カラスザンショウなどの落葉広葉樹とスタジイ、タブノキ、ウラジロガシ等の常緑広葉樹も混在しています。中低木としてヤマグワ、タマアジサイ、シバヤナギ、キハギ、ヤマツツジ、ハコネウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギ、コゴメウツギなども多くみられます。また、至る所でアオキの繁茂がみられ、草本類では展望台付近にセンボンヤリ、岩場にはケイワタバコの群落が見られます。ケイワタバコは横須賀市内では貴重な種です。公園内には草地の広場があり、不定期ですが草刈りが行われています。この草地は、イネ植物、キク科、マメ科植物が生育していて、ブタクサ、セイタカアワダチソウ、アレチヌスビトハギ、メリケンカルカヤ、メマツヨイグサなど帰化植物が侵入し増えています。

B区間は湘南鷹取住宅と子供の遊び場としての公園です。住宅地は路傍雑草などが中心でアブラナ科、アカバナ科、キク科、イネ科などの外来種も多く確認されています。また、鷹取小学校の石垣にはトラノオシダ、イヌカタヒバなどのシダ類、ホタルブクロ、コモチマンネングサ、コバノタツナミ、シンテッポウユリ、ペラペラヨメナなどが年間を通じて見られます。

C区間はアカガシ、スタジイ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が多く、コナラ、イヌシデの落葉樹も混在してい

ます。シイ、カシの森は冬でも暗く、林内は下草が少ない場所もあります。この区間にはクロモジ、ヤマコウバシ、ハナイカダ、ムラサキシキブなどの中低木もみられます。草本類ではキッコウハグマ、ツルカノコソウ、ヤマネコノメソウなど、この区間でしか見られないものも数多い。

2017年に東電の鉄塔工事があり、工事区間で樹木の伐採が行われ、伐採後にカラスザンショウの実生が多く生育しています。

D区間ではクヌギ、コナラ、オオシマザクラ、ニガキ、イタヤカエデ、エノキ、マルバアオダモなどの落葉広葉樹が多く、アカガシ、ウラジロガシ、タブノキなど常緑樹も

混在している。草本類は豊かで、ツクバトリカブト、ホタルカズラ、ヤマハッカ、ヤクシソウ、サラシナショウマなど在来の植物相が残っている区間です。

E区間は返子沼間の保安林及び自然環境保全地域に指定された林縁であり、林内には、スギ、ヒノキ、シロダモ等の常緑樹や、中低木としてムラサキシキブ、カマツカ、ガマズミ、マユミ、アオキ、ヤツデ、なども普通に見られます。

F区間は畑地がある場所であり、畑地沿いには、ニラ、ノビル、ヒメウズ、ヒガンバナ、オオジシバリ、ツルボ、カントウヨメナなど草地や土手などに生える草本類が多く見られます。

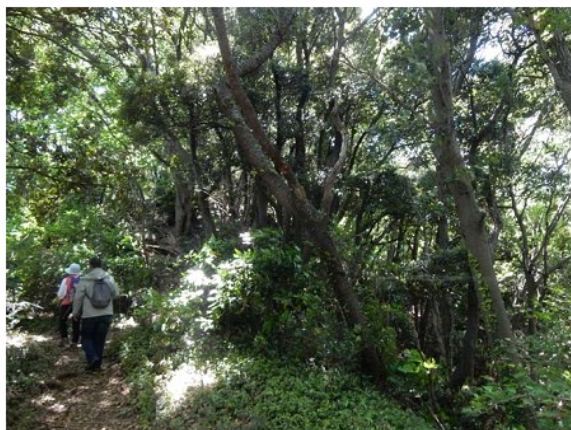
### 写真1 調査区間の特徴



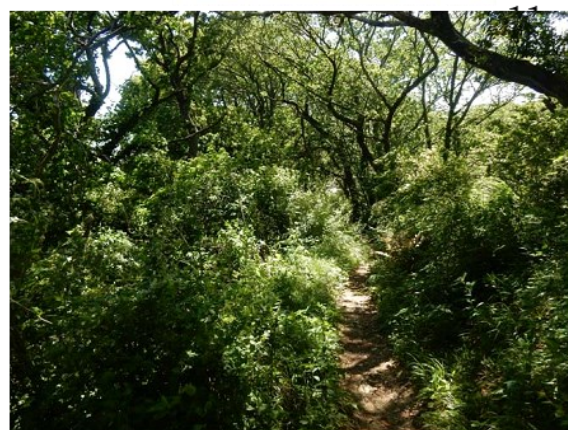
A区間 (鷹取山公園)



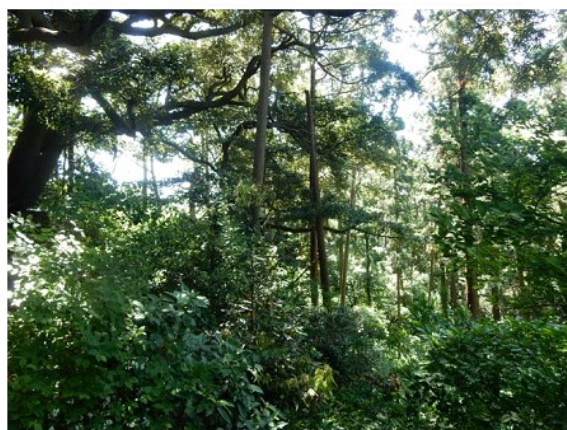
B区間 (住宅地)



C区間 (シイ、カシ常緑樹林)



D区間 (落葉樹林)



E区間 (スギ林縁部)



F区間 (畑地)

### 3. 調査結果

調査開始2013年～2023年までに確認した種は表1のとおりであり、713種であった。木本64科211種、草本62科444種、シダ植物16科58種でした。

表1 区間別の調査結果

区分	A	B	C	D	E	F	合計
草本	305	263	258	174	148	180	444
木本	139	84	120	103	89	83	211
シダ類	36	24	29	32	14	22	58
合計	480	371	407	309	251	285	713

#### (1).新たに見つかった種



観察を続けていると新たに見つかる種があり、楽しみです。草本では園芸種のミツカドネギ、ラッパズイセンなど。木本では植栽されたキジョラン、コムラサキ、ハゴロモジャスミンなど、シダ類ではタマシダ、コバノヒノキシダ、タマシダなどが新たにみつかっています。これらの中には以前から生育していたもので、見逃しがあつたものと思わます。

#### (2).帰化植物

調査区間の自然度を見るため草本類について帰化植物と在来種の分布割合を調べました。帰化植物とは、外国原産の植物で、牧草用や鑑賞用として輸入されたものが野生化して各地に広まっていった植物です。一方、日本に古来から生育している種は在来種といわれています。一般的に都市化されてくると帰化

表2 区間別の区間別の帰化植物

区間	帰化率(%)
A	28.8
B	34.2
C	23.2
D	8.6
E	9.4
F	22.8
全区間	29.5

植物が入り込み在来種の生息域を狭めてくることが知られています。また、逸出種という栽培種が野生に入り込むものがあり、逸出種も帰化植物に入れました。逸出種にはオシロイバナ、ヒルザキツキミソウ、オオアラセイトウ、ノシラン、ヒメツルソバ、ハナニラなど園芸種などから野生化したものが多く見られます。

帰化植物・逸出種の区分は横須賀市自然・人文博物館編「三浦半島の野生植物」により確認しました。

区間別の帰化植物の割合は表2のとおりであり、全区間の帰化率は29.5%(前年29.5%)であった。ちなみに神奈川県植物誌2018によれば、神奈川県全域で32.0%となっていて、帰化率は年々増加傾向にあります。

区間別に特徴を見ると、A区間は鷹取山公園内であり、人の出入りも多く、開けた草地があるため、ブタクサ、セイタカアワダチソウ、アレチヌスビトハギ、メリケンカルカヤ、メマツヨイグサなどイネ科、キク科、マメ科等の帰化植物が増加しています。また、人によって持ち込まれた園芸種も増加傾向にあります。

B区間は住宅地の道沿いと公園・広場などであり、帰化率が高くなっています。一方、D・E区間は在来種の割合が高く、帰化率は低くなっています。

#### 4.その他

新型コロナの感染も、2023年5月8日から「5類感染症」になり、マスクの着用も原則無くなりました。調査を続けることで、絶滅していく種やこの地域で新たにみつかるともあつたかもしれません。調査することは楽しみでもあり、この地域の植物相がはっきりしてくると思います。

鷹取山の周辺では調査コースではないが、ハチクの花が咲きました。120年に一度咲くといわれていて、珍しいものが見られた。現在は竹が枯れていますが、これからどのように再生するか観察を続けていきます。



2023年の調査に参加した人(敬称略・順不同)

本多久男、金子龍次、小池順子、中村紀雄、村上良二、星野節子、菅沼桂子、北村一男、三科清高、大澤美恵子、伊沢昭司、弦間幸子、竹之下香苗、大塚千賀子、樋口智子、高橋和子

# 総会の開催結果

鷹取山自然観察会は、毎年5月に総会を開催しています。コロナ過の中で総会の開催ができませんでしたでしたが、今年は5月12日開催しましたので報告します。

昨年度の会計報告と今年度の事業計画案、予算案など説明し承されました。今年度の事業計画は昨年度とほぼ同様であり、事業計画は下記のとおりです。2024年5月現在の会員数は26名です。

2023年度の報告事項として主だったところは、支出では、焼杭、樹木板のスプリングなど消耗品の購入、自然観察ガイド樹木編500部の印刷費、リーフレット5000部の追加の印刷費用です。

2024年度計画では、モニ1000調査のうち、植物相は本多、蝶類・セミの抜け殻は三科さん、鳥類は北村さんに引き続きお願いしています。

会報は4回発行予定です。会報の編集は今年から、本多が担当します。長年編集を担当してくれた三科さんには感謝しています。

鷹取山公園にリーフレットをチラシケースに配架していますが、竹之下さんをお願いしています。

小学校からの依頼があった場合は、会員有志でガイドしますので、その節はよろしく願います。樹木板の設置は昨年からスプリングに更新しています。

以上、事業計画案のとおり進めさせていただきま

す。出席の方からいくつか質問などがありました。

巣箱が痛んでいるものがあり、作り直す必要があるのではないかと

巣箱は2013年に巣箱10個作り、翌年に更に10個



作成しました。巣箱の傷んでいるものは取り外し現在10個が掛けてある。壊れた巣箱は今年度新たに作り直していきます。

鷹取山ではいくつか課題があり、横須賀市に対して要望しています。一つは水道タンクから磨崖仏へ上る階段は木製で老朽化して痛みがひどく、雨が降ると滑りやすく、丸杭形のコンクリート製に改修できないか相談している。

二つ目は尾根道沿いの観察路ではコナラの立ち枯れもあり、倒木や枝が落ちたりと危険な場合もあるので注意が必要です。危険な場所もあり、市で伐採するようお願いしている。3つ目は貴重植物の盗掘であり、対策がないか相談している。

ちなみに、毎年総会参加者は少なく、次年度以降は総会は取りやめにします。ご意見のある方は直接かメールなどでご意見お願いします。

## 2024年度事業計画

### 自然観察会、調査・広報活動

#### 1. 自然観察会の開催

##### (1) 定期的な自然観察会の観察会の開催

実施時期 毎月原則として第2日曜日 雨天の場合は翌週に延期

#### 2. 植物相調査など生き物調査

環境省のモニタリングサイト1000里地調査により植物相及び蝶、鳥類について調査 また、会独自にセミの抜け殻調査などを行う。

##### (1) 植物相調査 第2金曜日

##### (2) 蝶類調査 4月～11月の間 第1、3金曜日

##### (3) 野鳥調査 越冬期:12月～3月の間 第1、3金曜日に1往復

繁殖期:5月24日金曜、6月4日火曜、28日金曜に1往復

##### (4) セミの抜け殻調査 7月26日金曜日、8月23日金曜日 2回

#### 3. 会報の発行などによる広報

(1) 会報 年4回(6月、9月、12月、3月)発行し、会員、横須賀市博物館、県博物館、横須賀市・逗子市・神奈川県自然環境関係機関、横須賀市自然環境活動団体交流会、鷹取山安全登山協議会などに送付

(2) ホームページの更新 随時更新

#### 4. 「鷹取山の自然を大切に」のリーフレットの配布

(1) 公園内に「鷹取山のマナー」の看板を設置した他、「鷹取山の自然を大切に」のリーフレットの配布するほか、公園内に配架する。

5.よこすか環境教室(環境教育指導者等派遣事業)等への協力

よこすか環境教室に「環境教育指導者」として団体登録している。市内の小中学校などから自然観察の依頼があれば対応する。

6.他団体との情報交換

(1) 横須賀市自然環境団体交流会

## 自然観察の里山づくり

1. 樹木板の設置

鷹取山公園を中心に2013年から樹木板を設置している。昨年木を傷めないようPPロープからスプリングに変更し、樹木板の掛け替えを行う。  
実施時期 4月26日金曜日他

2. 巣箱の掛け替え

平成25年から野鳥の保護と野鳥観察を目的として巣箱掛けを行ってきた。現在約10個の巣箱が掛かっており、その掛け替え作業をする。

実施時期 11月22日金曜日

3. 掲示板

鷹取山公園に市が設置した掲示板を活用し、季節の花だより、山で見られる蝶、野鳥、ドングリなどポスターを作成して掲示する。 毎月更新

4. 鷹取山公園の自然保護

鷹取山公園を管理している横須賀市と平成29(2017)年度「鷹取山公園等を自然観察の里山づくりの利用について」として協定を結び次の活動をする。

(1) 貴重種の保護を目的とした看板、柵の設置

(2) 貴重植物の保全活動

(3) 植樹及び維持管理

植樹した場所にコナラ、クヌギの補植を行う。

これらの活動全てについて、会則に則り実施しますが、強制ではありません。興味関心のあるイベントにご参加ください。

## 樹木板の設置

当会では、多様な樹木について、散歩で歩かれる方やハイカーの方にも関心を持ってもらうため2013年から樹木板を設置しています。樹木の名前を覚えることで、自然と触れ合うきっかけとなれば幸いです。

私たちの調査では、鷹取山周辺で200種ほどの樹木を確認しています。ここではコナラ、クヌギ、イヌシデ、イタヤカエデ、オオシマザクラなど落葉広葉樹やタブノキ、シロダモ、スダジイ、アカガシ、ウラジロガシ、アラカシなどの常緑広葉樹、カマツカ、ウツギ、イボタノキ、ムラサキシキブ、ガマズミ、イヌビワなどの中低木が混在して里山を形成しています。



今年には会員有志で4月28日に樹木板を設置しました。当初はシュロ縄で樹木板を木に縛りつけていましたが、シュロ縄が2,3年で切れてしまうため、プラス

チックロープに交換してきました。こちらは切れない代わりに木が成長すると木に食い込んだりして木を傷めてしまうこともあり、昨年からはスプリングを購入し樹木板に取り付けています。

会員4名で古くなり、傷んだ樹木板を交換していきました。樹木板には写真のように樹木名と簡単な特徴が書いてあります。プレートをスプリングにより木にとめていきました。崖地や坂道などもあり苦労しましたが、2時間余り作業を行いました。

樹木板は写真のように木製で種名、特徴、科名を記載してあります。樹木板を設置してから、多くの方に樹木の名前や、花の咲く時期が分かって良かったなどご意見を頂いています。樹木板の設置に参加された方はご苦労様でした。

参加した人(敬称略・順不同)

本多久男、中村紀雄、星野節子、菅沼桂子



# 自然観察会150回記念

鷹取山の自然観察会は2011年4月10日に第1回を開催して以来、2024年4月で150回の開催となりました。

第1回の観察会は鷹取山のホームページで開催の呼びかけをしたところ、中村さん夫婦、高橋さん夫婦と市川さんの5人が参加してくれました。初めての観察会でもあり、こちらも緊張して行ったことを覚えています。

はじめは鷹取山公園集合でしたが、2014年から集合場所を駅の改札出口にして、追浜駅、京急田浦駅、神武寺駅の3か所として行っています。また、最初の頃は広報も十分ではなく、参加者が少ないこともありましたが、最近は定員を超えることもあります。

2016、2017年には横須賀市市民協働推進補助金により「鷹取山の自然観察ガイド」春～夏編、秋～冬編の2冊と、昨年度樹木編を作成し観察会も充実してきましたと感じています。

自然観察会は植物と昆虫などをテーマとして毎月行っています。季節ごとに見られる植物については本多が担当し、オトシブミ、蝶、バッタ、コオロギなど季節ごとに見られる昆虫をテーマにした観察会は三科さん

がわかりやすく解説しています。

山に入ると毎回新たな発見があります。自然観察会では、参加者の方に鷹取山の多様な自然を知ってもらうこと、自然と親しみ関心を持ってもらいたいと願っています。

これからも200回を目標に観察会を続けていきますので、ご支援よろしくお願い致します。



2011.4.第1回自然観察会



2024.4.第150回自然観察会

## 自然観察指導の48手

自然観察会の講習会を実施している日本自然保護協会では自然観察会を行う人のために、身につけてほしいことを48の標語で紹介した「自然観察指導の48手」という冊子を作っています。この中には自然観察指導員が守っていくべき手法がイラストでわかりやすくまとめられています。自然観察の参加者にとっても参考になるとと思います。

自然観察会では植物の名前、昆虫の種名を教えがちですが、これらは二の次であり、自然の多様性などを知って自然に関心を持ってもらうことが目的だと思います。

そのための手法として、イラストの「五感を活用させよう」では観察の際には五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚)を使って観察することを呼び掛けています。

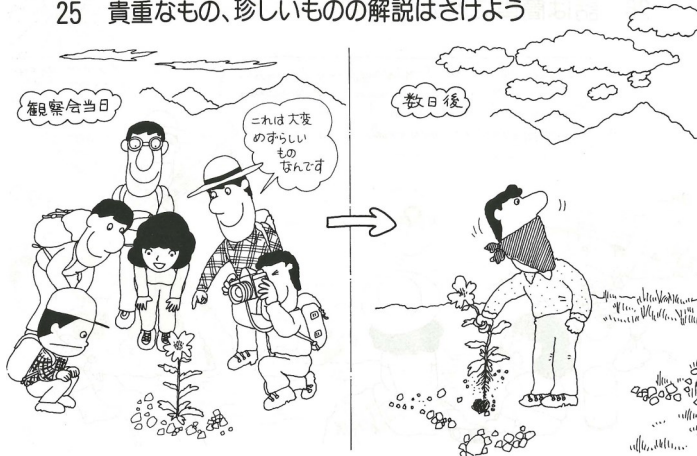
どうしても視覚が中心になってしまいますが、鳥の鳴き声、クサギやハクソカズラの葉っぱの臭いを嗅いだり、ヤブムラサキのビロード状の葉っぱの感触、ニガキの苦い葉っぱを噛んでみたり、一度味わうとその感触は忘れられません。

また、最近では貴重植物の盗掘の被害が目立っています。不特定の方が参加する観察会では貴重植物の説明はしない方がベストです。「貴重なもの、珍しいものの解説はさげよう」ではキンラン、ギンランなどラン科植物絶滅危惧種の解説はやめましょう。

### 24 五感を活用させよう



### 25 貴重なもの、珍しいものの解説はさげよう



# 植樹した木の花が咲きました

トラストみどり財団による植樹の成長記録については会報38号に掲載しましたが、コナラ、クヌギなど植樹した苗は大きく育ってきています。

植樹は2019年から開始し、横須賀市の許可を頂き、2020、2021年には、かながわトラストみどり財団の助成金によりコナラ、クヌギ、ガマズミ、エゴノキ、ムラサキシキブ、キブシ、ネムノキなどを植樹しました。

植樹した場所は、鷹取山公園磨崖仏の東側になり、日当たりの悪い場所もありますが、ガマズミ、エゴノキは日陰でも成長は早く、この春に初めて花が咲きました。以前はアオキ、ヤツデが繁茂した暗い森で、下草も生えない場所でしたが、会員の努力で落葉樹を中心に植樹しました。



エゴノキ



ガマズミ

植樹前は右写真とおり、アオキ、ヤツデが繁茂し、薄暗い場所でしたが、アオキなど伐採後にコナラなどの苗木を植樹しています。



植樹前のヤツデ アオキ類

## 2024.4.19 蝶類グループの記念写真



## 俳句

小島常義さんが自然観察会に参加した折に作った句を紹介しています。

六月のテーマ

「初夏に咲く花を観察しよう」

口々に愛でる言の葉花式部

七月のテーマ

「蝶とその食草を探してみよう」

瑠璃小灰蝶磨崖仏へのぼり飛ぶ

八月のテーマ

「セミやバッタを観察してみよう」

ななそじ

七十路の手に捕虫網ぎこちなく

※七十路＝七十代



ムラサキシキブ



ルリシジミ



蝶の捕虫



## 定例自然観察会の予定

7月14日(日)	「蝶とその食草を探してみよう」	追浜駅集合
8月4日(日)	「セミやバッタの観察をしてみよう」	京急田浦駅集合
9月8日(日)	「鷹取山の秋の七草は何でしょう」	追浜駅集合

## モニタリング1000里地調査等の予定

植物相調査	7月12日(金)	集合場所、時間	蝶類調査	7月5日(金)、19日(金)	集合場所、時間
	8月9日(金)	鷹取山公園東屋		8月2日(金)、16日(金)	鷹取山公園東屋
	9月13日(金)	10時集合		9月6日(金)、20日(金)	10時集合
蝉の脱け殻調査	7月26日(金)	鷹取山公園東屋10時集合	自然観察会の延期は翌週日曜日です。モニ1000調査の雨天延期の場合は日曜日、更に水曜日となります。		
	8月23日(金)				

## 自然観察会の報告

3月10日(日)	早春の野草を探してみよう	会員13人、非会員9人、計22人
4月14日(日)	春に咲く花を見つけよう	会員10人、非会員7人 計17人
5月12日(日)	オトシブミを見つけよう	会員9人、非会員11人 計20人

## モニタリング1000里地調査の報告

植物相調査	3月8日(金)	曇4.9℃	参加6人		
	4月12日(金)	曇15.4℃	参加10人		
	5月10日(金)	快晴19.6℃	参加9人		
蝶類調査	4月7日(日)	曇17℃	参加6人	3種17頭	
	4月19日(金)	快晴20℃	参加8人	12種62頭	
	5月3日(金)	快晴20℃	参加7人	19種115頭	
	5月17日(金)	快晴23℃	参加8人	10種52頭	
鳥類調査	3月1日(日)	曇8℃	参加10人	21種80羽	
	3月15日(金)	晴	参加9人	15種80羽	
	5月24日(金)	快晴21℃	参加5人	14種94羽	

当会では不定期ですが、会員有志で階段の整備、植樹場所の手入れ、貴重植物の保護のため保護柵の整備など行っています。主旨賛同される方は、参加ください。

鷹取山自然観察会(ホームページを見て下さい)

HP:鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先:世話人代表:本多久男 e-mail:takatori\_0721@nifty.com